

柳原良平没後 10 年 企画展開催のお知らせ

柳原良平没後 10 年記念企画展

柳原良平

をかたちづくるもの

船・アンクルトリス そして横浜



2025 年 8 月 9 日(土)



10 月 13 日(月・祝)

柳原良平没後 10 年の節目の年に、柳原の創作活動の核となる「船」・「アンクルトリス」・「横浜」を題材とした作品約 400 点を展示します。

初公開作品や、約 25 年ぶりに展示される作品など、柳原良平を「かたちづくる」多彩な作品をお楽しみください。



左：みなとみらい リトグラフ 2010 年

上：日本のクルーズ船 三隻揃い踏み 切絵
2009 年 **初公開**

■展示構成

1 柳原良平をかたちづくるものー船

1-1 船好きの誕生 1-2 船の絵を仕事にする 1-3 変化する船の絵

2 柳原良平をかたちづくるものーアンクルトリス

2-1 アンクルトリス誕生前夜 2-2 アンクルトリス大活躍

3 柳原良平をかたちづくるものー横浜

3-1 横浜の街に暮らす 3-2 横浜の街をつくる 3-2 横浜の港を描く

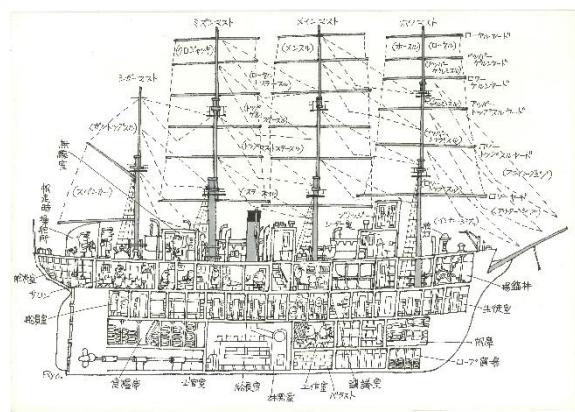
1 柳原良平をかたちづくるもの—船

柳原は寿屋退社後、子供の頃から好きだった船の絵を本格的に仕事にします。1964(昭和 39)年には港と船が見える横浜山手に転居、1968(昭和 43)年には『柳原良平 船の本』を出版、これが大きな転機となり船の画家としても知られるようになりました。

柳原は生涯にわたり、船の絵を仕事とします。一隻ごとに異なる船の美しさを切絵、油彩、水彩、リトグラフなど様々な技法で表現しました。

また船を正確に、美しく描くことが柳原の基本姿勢であり、創作の原点でした。

一方、70 歳を超えてなお、自らの画風を大きく変え、モダンで現代的、コンテンポラリーな作品を生み出しました。

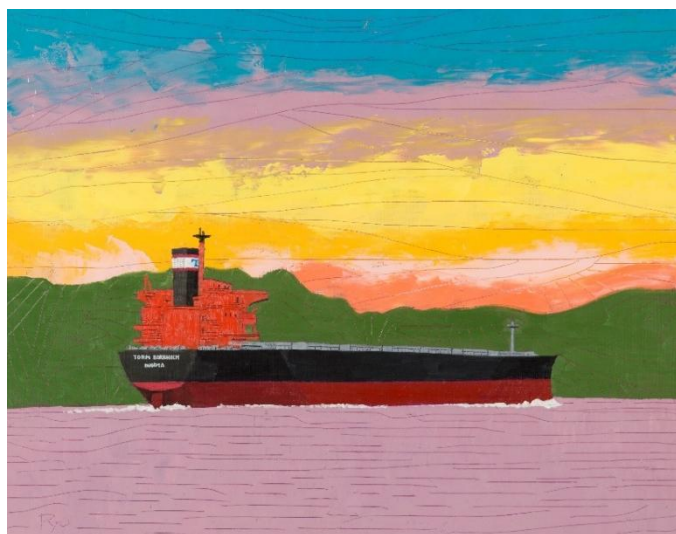


上から

あとらす丸 1950(昭和 25)年頃 油彩、キャンバス 船の完成前に図面を見て制作した **24 年ぶり公開**

帆船日本丸断面図(仮題) 1968(昭和 43)年 インク、紙 『柳原良平 第2 船の本』カット原画 運輸省航海訓練所の練習船日本丸の断面図

船でいっぱい港(仮題) 1964(昭和 39)年 インク、様々な紙 絵本『しょうぼうていしゅつどうせよ』原画 **初公開**



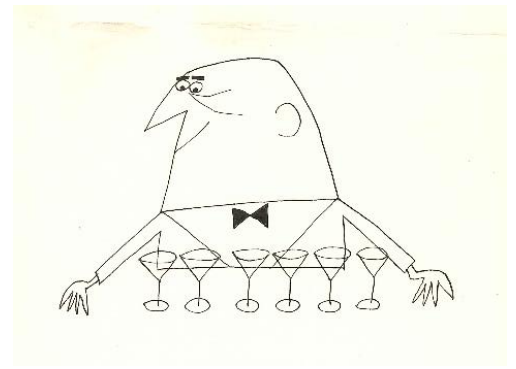
TORM BORNHOLM 2005(平成 17)年 油彩、キャンバス **初公開**

2 柳原良平をかたちづくるもの — アンクルトリス

柳原良平を一躍有名にしたのが、広告デザインを担当した洋酒の寿屋(現：サントリー)の広告に登場したアンクルトリスです。

アンクルトリス誕生以前から、柳原は寿屋の広告デザイン、特に新聞広告のデザインを数多く手掛けていました。開高健のコピーに、2種類の紙を使ったシャープなイメージの切絵を使ったトリスウイスキーの広告は日本宣伝美術会展覧会で入選するなど高い評価を得ています。

1958(昭和 33)年にはアニメーション制作のため、アンクルトリスを造形。「洋酒マメ天国」などに代表される広報誌や数々のノベルティにアンクルトリスが使用され、人気を博します。以降、寿屋、サントリーの顔としてアンクルトリスは現在まで活躍を続けています。



上 トリスウイスキー雑誌広告「旅行・行楽にはカメラが当るトリスポケット瓶を」版下原稿 1954(昭和 29)年頃 **初公開**

中列左 アンクルトリス楊枝入れ 1970年代 サントリー 個人蔵

中列中 辞典の前で酒を飲むアンクルトリス(仮題) 1970(昭和 45)年 インク、様々な紙 『洋酒マメ天国 第12巻 洋酒掌辞典』 表紙原画 **初公開**

中列右 カクテルグラスを6つ並べるアンクルトリス(仮題) 1968(昭和 43)年 インク、紙 『洋酒とカクテル』挿絵原画 **初公開**

下 ビール天国 第4号 1963(昭和 38)年 サントリーの広報誌 個人蔵



3 柳原良平をかたちづくるもの—横浜

横浜転居後、柳原は横浜での活動の場を広げ、1977(昭和 52)年からは横浜海洋科学博物館閉館の危機を救うため「横浜市民と港を結びつける会」を設立しました。柳原は引退する練習帆船日本丸の横浜誘致運動、日本丸誘致にともなって建設される横浜マリタイムミュージアムの計画策定などに尽力し、現在の帆船日本丸・横浜みなと博物館の基礎を築くことになりました。以降柳原は横浜市の様々な委員会に参画し、横浜の港と街づくりに深くかかわっていきます。

柳原は 2015(平成 27)年に逝去するまで、40 年以上横浜に暮らし続けました。横浜の街、特に港周辺は柳原にとって散歩道であり、仲間と語らう遊び場であり、家族との生活の場であり、もちろん作品を生み出す場でもありました。横浜の港を、街を、歩いて見つけた場所で柳原は多くの作品を描いています。



上から

海と船と港を愛するみなさん仲間になりませんか
1977(昭和 52)年 港と市民を結びつける会入会案内のパンフレット



バー(仮題) 2008(平成 20)年 水彩、紙 **初公開**

飛鳥 1993(平成 5)年 リトグラフ **初公開**

横浜港大栈橋より神奈川県庁、開港記念会館を望む
1980(昭和 55)年 油彩、キャンバス 横浜市立元街小学校蔵 **24 年ぶり公開**



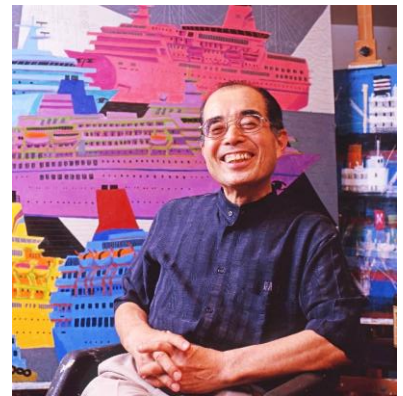
東京オリンピック大栈橋に客船集合 1989(平成元)年
油彩、キャンバス **初公開**

■本展の見どころ■

- ・2015年に横浜市へ寄贈され、当館で保管している作品から、**初公開の作品を中心に展示しています。**
- ・**柳原良平没後10年の節目の年の開催となります。**2016年に当館で開催した企画展「柳原良平 海と船と港のギャラリー」以来、**当館では約10年ぶりとなる大規模な柳原良平の展覧会です。**
- ・**展示点数は約400点です。**
- ・柳原良平の制作活動の核となる「船」の絵を、作風の変化も交えて通覧できます。
- ・株式会社商船三井所蔵の切絵「The country of the rising sun Japan!」や横浜市立元街小学校所蔵の油彩画「横浜港大栈橋より神奈川県庁、開港記念会館を望む」をお借りし、約25年ぶりに公開します。
- ・サントリーの広報誌「洋酒とカクテル」「洋酒マメ天国」などに登場するアンクルトリスの原画約100点を初公開します。
- ・2020年に当館に寄贈された、横浜市民と港を結びつける会の資料を初公開します。柳原良平が半世紀余りを暮らした横浜での柳原良平の活動がわかります。

柳原良平 YANAGIHARA RYOHEI

- 1931年 8月17日、東京府豊多摩郡(現・杉並区)に生まれる。
- 1954年 寿屋(現・サントリー)宣伝部意匠課に入社。
- 1958年 アンクルトリスのテレビコマーシャル放映開始。
- 1964年 港が見える横浜市中区山手町に引越す。
- 1968年 『柳原良平 船の本』(至誠堂)を出版。
- 1977年 「横浜市民と港を結びつける会」結成。横浜文化賞受賞。
- 1983年 せんたあ画廊(横浜市)で個展開催。以後ほぼ毎年開催。
- 1986年 みろくの里版画工房(広島県沼隈町)でリトグラフを始める。
- 1995年 「アンクル船長の館」(尾道市)開館。2009(平成21)年閉館。
- 2015年 せんたあ画廊で個展開催。最後の個展となる。
- 同年8月17日、呼吸不全のため死去。享年84歳。
- 2016年 遺族から横浜市に4848点の作品が寄贈される
- 2018年 横浜みなと博物館館内に柳原良平アートミュージアムオープン



本企画展にあわせ

横浜みなと博物館ミュージアムショップにて柳原良平グッズ新発売！

企画展図録のほか、絵本の原画を使用したサーモボトル、アンクルトリスのステッカーなど、多彩なオリジナルグッズを新たに販売します

※価格等はお問い合わせください。



■企画展情報

柳原良平没後 10 年 企画展「柳原良平をかたちづくるもの―船・アンクルトリスそして横浜―」

会期 2025 年 8 月 9 日(土)― 10 月 13 日(月・祝)
休館日 月曜日。ただし祝日にあたる場合は開館し、翌日休館。8 月 12 日(火)、9 月 22 日(月)は特別開館
会場 横浜みなと博物館特別展示室
開館時間 10:00～17:00
入館料 一般 500 円、小・中・高校生 200 円、65 歳以上 400 円 ※常設展示室も見学可。
主催 公益財団法人 帆船日本丸記念財団
助成 みなとの博物館ネットワーク・フォーラム
協賛 株式会社ありあけ サントリーホールディングス株式会社 株式会社美術著作権センター
株式会社商船三井 みなとみらい 21 熱供給株式会社 柳原良平作品鑑定委員会
株式会社横浜銀行 横浜高速鉄道株式会社 株式会社横浜国際平和会議場(パシフィコ横浜)
横浜ベイサイドマリーナ株式会社
特別協力 株式会社サン・アド
後援 神奈川新聞社 公益財団法人 日本海事広報協会 一般社団法人 横浜港振興協会 横浜市港湾局
NHK 横浜放送局 t v k (テレビ神奈川)

■関連事業

柳原良平のゆかりの地をめぐるガイドツアー「柳原良平の船と横浜をめぐる旅」

企画展を担当学芸員の解説付きで見学後(約 40 分)、横浜シティガイド協会の案内(約 100 分)で柳原ゆかりの横浜港と周辺の街をめぐる※雨天決行、荒天中止

日時：9 月 27 日(土)、10 月 2 日(木)、10 月 8 日(水)、10 月 12 日(日)10:00～13:00 頃

受付開始：8 月 19 日(火) 詳細は博物館 WEB ページをご覧ください

参加費：1 名 1,500 円(博物館入館料、シティガイド料金、記念品を含む)

学芸員による展示解説(申し込み不要)

日時：8 月 17 日(日)、9 月 15 日(月・祝)、10 月 13 日(月・祝)、各日①11:00②14:00

会場：横浜みなと博物館特別展示室 参加費：無料 ※ただし、企画展または常設展示の入館料が必要

■お問い合わせ

公益財団法人 帆船日本丸記念財団

広報担当 営業企画課 和田 後藤 久保田

展示担当 学芸課 三木(横浜みなと博物館学芸員)

220-0012 横浜市西区みなとみらい 2-1-1

TEL.045-221-0280 FAX.045-221-0277 E-mail eigyou@nippon-maru.or.jp

<https://www.nippon-maru.or.jp/>